

産業界からの意見聴取概要

<聴取概要>

- 1 趣旨

高校教育の将来の在り方について産業界関係者等に意見聴取し、検討委員会の協議における参考にする。
- 2 概要
 - (1) 対象 地域産業界関係者及び教育関係者 12名
 - (2) 聴取期間 令和6年3月1日(金)～4月8日(月)
 - (3) 聴取方法 高校未来創造室職員が対象となる方を訪問し意見を伺う。
- 3 おもな聴取事項

テーマ「対応すべき社会の変化と今後の高校教育に求められるもの」

 - ・各産業界(大学)の現状
 - ・各産業界(大学)から見た高校生(若者)の現状と課題
 - ・これからの社会(各産業界や大学)で求められる資質や能力
 - ・各産業界(大学)から見たこれからの高校教育に求められるもの(学校像や学科等)
 - ・産業界(社会)と学校の連携
 - ・県立高校の更なる魅力化・特色化に向けたアドバイス
- 4 意見聴取産業

産業分類		産業分類	
1	農業・林業	7	運輸業・郵便業
2	漁業	8	卸売業、小売業
3	建設業	9	宿泊業、飲食サービス業
4	製造業	10	生活関連サービス業、娯楽業
5	電気・ガス・熱供給・水道業	11	医療・福祉
6	情報通信業	12	県内四年制大学

<① 各産業界(大学)から見た高校生(若者)の現状と課題>

- ポジティブな印象**
- 将来の夢を明確にしている生徒は、熱い思いを持ち、学校生活を充実させている。
 - 就職に強い思いを持っている高校生は、長続きする傾向がある。自分の興味や性格に合った職業を選ぶことが重要である。
 - 社会の変遷に伴い、若者の仕事観が変化している。終身雇用への概念が薄れ、転職に抵抗がないなど、新しい価値観を持っている。
- ネガティブな印象**
- 他者を尊重する思いやりが欠如している場面があり、コミュニケーション不足や人間関係の構築に悩む若者がいる。
 - おとなしい印象の若者が多く、自己主張が少ない一方で、嫌なものを受け入れない頑なさがある。
 - コミュニケーション能力の低下やライフスタイル志向、人間関係構築の難しさが顕著であり、マニュアル通りの対応を好む若手社員が増えている。
 - 物事を教科書通りに捉え、現実との乖離を考慮しない一面的な捉え方がある。多面的な視野が必要である。
 - 興味のある分野は深く突き詰めるが、他の情報にはあまり触れない傾向がある。
 - スマートフォンの影響で、交友範囲や知識の幅が狭まっている傾向がある。

<② これからの社会(各産業界や大学)で求められる資質や能力>

- (人間性、精神面に関すること)**
- 住民と協力して地域社会を守る相互扶助の精神が重要である。
 - 知識だけでなく他者への思いやりや尊厳を重視する態度、三世帯同居で育まれるような、折り合いを見つけながら生活する気遣いや優しさが大切。
 - 成人年齢引き下げもあり、高校卒業後すぐに社会に適応できる知識と能力が必要。社会人としての言葉遣いや一般常識が重要であり、コミュニケーション能力は業務遂行や部下育成にも関連する重要な能力である。
- (基礎学力や柔軟な思考に関すること)**
- 社会が多様化していることから、偏りのない広い知識や、様々な視点から物事を見る柔軟さと発想力が大切である。
 - 自分の興味や得意分野を見つけることが重要であり、企業は個々に合った配置や指導を行うことができる。
 - 仕事をこなすだけでなく、常に疑問を持ち、事実や真実を見極める目を養うことが求められる。
 - グローバル化が進む社会では、一般常識として日本や地域を知るということも重要。
- (挑戦する姿勢等に関すること)**
- 社会では、失敗を恐れずチャレンジし、行動力のある人間が求められる。
 - 資格取得に挑戦したり、目標に向かって準備し、やる気を持つことが重要である。
 - 反復練習によって技術は向上するため、努力と忍耐力が不可欠である。
 - 学び続ける姿勢と、学んだことを社会に還元する積極性が重要である。

<③ 産業界(社会)と学校の連携>

- (連携の在り方・意義に関すること)**
- 高校での従来の方法を尊重しつつ、学習に無理のない範囲で実践を取り入れる必要がある。社会や大学を知るためには、産業界との連携が非常に重要である。また、教材の選択も重要である。
 - 一般的な産業界へのイメージが古いものであり、現在の状況を正しく理解してもらうためには、産業界との連携が必要である。
 - 水産高校から若手漁業者に対して技術的な支援が可能ならば、漁業の発展や若手漁業者の技術向上に寄与することが期待される。
- (キャリア教育の連携に関すること)**
- インターンシップは職業や地元企業を理解する上で有益であり、人材育成につながるならば、企業側も支援を惜しまない。出前授業や意見交換、インターンシップの機会を増やす取り組みが重要である。
 - インターンシップの充実を図るため、生徒が自分の目で複数の企業を確認し、インターンシップ先を自由に選べるような取り組みも考えられる。
 - インターンシップでは限られた体験しかできない可能性もある。専門スタッフを学校に派遣し、出前授業等を実施するなどの連携が考えられる。
- (学習内容での連携に関すること)**
- 農業分野では、生産者単位ではなく地域と連携することが重要であり、地域の課題解決を目指した探究的な活動が学習スタイルに合っている。
 - 定期的に、企業を会場にして作品制作や探究学習での連携を実施するなど、継続的な連携が可能である。
 - 企業からが高校へ専門スタッフや高校のOBを派遣し、パネルディスカッションやディベートを通じて学びを深める取り組みも考えられる。
 - 商品の共同開発や販売など、コラボレーションが可能であり、産業界を正しく知るためにも協力を惜しまない。
 - 山形は人材が豊富であり、企業を定年退職した人材なども活用し、実践的な講義を行い、受験と切り離れた実践力のある教育を展開することが可能である。

<④ 産業界（大学）から見たこれからの高校教育に求められるもの>

（社会性の涵養に関すること）

- コミュニケーションスキルや人間関係の構築を学ぶ機会が必要であり、過去には三世代同居や部活動で自然に身につけてきたが、現在はそのような環境が減少しており、教育の一環として教える必要がある。
- 性差を無視した全人格的な教育が必要である。
- 高校での教育は人づくりが重要であり、どの職業でも他者を思いやる心が大切である。

（個性の伸長に関すること）

- 成績だけでなく、部活動等生徒の得意分野を活かした大学進学など、個々の努力や個性を評価し、進路へ活かす教育が重要である。

（基礎学力に関すること）

- 高校生時代は将来を見据え、理系や文系にとらわれず、幅広い学習をするべき。
- グローバル社会となり、コミュニケーションを取れるレベルの英語教育の充実。
- 教養を育てることが重要であり、高校で政治や経済、金融教育を学び、社会生活に必要な知識を身につけることが重要である。
- 様々な年代と接するため、仕事では語彙力が必要であり、デジタル機器の普及が進んでも、活字を読む力を育てる教育が必要である。

（地元の人材育成・職業教育に関すること）

- 山形の魅力を感じ、地元に残りたいと思うような取り組み、就職や進学で県外に出ても、将来的に県内に戻ってくるような教育が重要である。
- 生徒が将来の職業を考えるために、様々な業種を知る機会が必要である。
- 地域の発展に貢献している地元企業を理解し、地域に人が残る進路指導が必要である。
- 農業は地域の環境を守り、食料の生産を担っている。法人経営など、非農家出身でも職業として選択できる環境が増えており、高校でも農業に触れる機会を確保するべき。
- 漁業者との協働や経営的な視点を養うために、近隣の漁業との連携や漁業の流通までを学ぶ実践的な学びが重要。
- 地元の高校で土木学科がなくなっているが、土木や建設に関する学科は各地域に残すべきである。
- 建設土木の業界ではデジタル技術を活用した技術革新が進んでおり、性別に関わらず仕事ができる環境となっている。デジタル機器を扱う教育が必要である。
- 現場での実習や地元での体験を取り入れ、産業を身近に感じられるような教育が必要。
- 将来無くなると予測される業種は高校の学びから外すなど、大胆な改革が必要。
- 産業高校の教育環境を整備し、夢と希望が持てるような環境を整えることが必要。

（統廃合に関すること）

- 地方の小規模な学校については、すぐに統廃合せず、リモート授業などで生徒の教育を支援出来る可能性を検討するべきである。
- 県立高校は公的な機関であり、地域の教育を維持していく視点が重要である。大規模な学校が小規模な学校を統合する流れは慎重に検討すべきである。

<⑤ 県立高校の更なる魅力化・特色化に向けたアドバイス>

（産業系高校について）

- 生徒にロールモデルとなる人材を見せることで、その産業の活気や魅力を伝えていくことが重要である。
- 産業は分野が多様であり、将来の進路について多くの選択肢を提案できる。特に産業系の学科では、進学も含めて多様な選択肢から進路を選べる環境であることを中学生に理解してもらうことが重要である。

（魅力の創出について）

- 少子化に伴う定員割れが進む中、倍率が出ている学校はそれだけで人が集まる効果がある。
- 学校ごとの特色が重要。学校の学習に地元企業が支援することは、実践的な学習につながり、特に工業団地の場合、様々な業種の協力を得ることができる。地元の産業界との繋がり取り組むことが、高校の特色化に繋がる。
- 生徒が多彩な活躍の場を持ち、様々な生徒が主役になる機会があることが、生徒たちに活気が生まれ、魅力的な学校に繋がる。
- 山形では地元生粋の経営者が多く、優れた人材が豊富である。地元の技術や文化を活用した取り組みがその学校の特色化・魅力化につながる。
- 通学バスに代表されるように、私立高校のサービスの向上や、部活動の充実が魅力となっている。県立高校も通学条件の改善だけでも魅力に繋がる。
- 私立高校は進学コースと部活動などを兼ね備え、生徒の多様性が魅力となっている。

（PR方法について）

- 産業系高校もPRを強化して魅力を伝える必要がある。県立大学と高校の連携や、進学促進も魅力につながる可能性がある。
- 広告やPRは、ターゲットを明確にして確実にアプローチすることが重要である。
- 企業も専門業者へ委託し、動画を作成してPRを行っており、SNSでの発信も含め、多方面から情報発信を行っている。
- イベントを通して業界のことを説明させていただく中で、参加者の琴線に触れるような事があると考えている。高校も中学生に接する機会を増やすことで、PR効果が上がると考えられる。

（魅力化の課題について）

- 一部の学校のブランド意識が強い山形では、その他の高校の魅力化が難しい。全体の意識を変える取り組みが必要だ。

<その他>

- 入学の競争がない状況も良いが、競争から得る達成感も重要である。社会に出てからの競争に備え、入学者選抜による競争経験は必要だ。
- 地元の小学校も学校規模が小さくなり、競争意識の低下が見られる。少数の手厚い指導も必要だが、社会では揉まれる経験も大切であり、将来を見据えた教育が求められる。
- 人口減少を抑えるために、他県からの入学生を募集することも考えられる。地域での様々な体験が、関係人口の創出につながる。
- 教員不足も深刻な問題である。